

祝詞考

祝詞考

天

特56

262

館書圖京東

三	五	三	神	和
冊	號	架	昏	書
			類	門

014525-001-5

特56-262

祝詞考(翻刻)

加茂 真洵 / 著

1冊(天47丁)

M16

ABB-0907



加茂真測翁著

祝詞考

明治十六年
十二月翻刻

加藤氏藏



頁56
267

我上ハ... 諸君...
 平權少... 諸君...
 可及... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...

おのひだり... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...
 諸君... 諸君...

〇祝詞考上

〇第一

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, located at the top of the right page. It consists of approximately 15 lines of text.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script. The text appears to be a continuous passage or a list of items.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, located at the top of the left page. It consists of approximately 15 lines of text.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines of cursive script. The text appears to be a continuous passage or a list of items.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or a personal account, written in a single column within a rectangular frame.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or a personal account, written in a single column within a rectangular frame.

亦平好まきとて狭く好んまゝに公帳
鑿りて後を鑑むるに雄に
一も標中好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに

の古好まきとて(公)のまゝに
神響の響を鑑むるに雄に
一も標中好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに
好まきとて(公)のまゝに

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or a personal letter. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the right page. It appears to be a continuation of the same text or a separate entry.

代はりてはるる言はれりてはるる言はれりて
神にあらまほしき言はれりてはるる言はれりて
しとてはるる言はれりてはるる言はれりて
とてはるる言はれりてはるる言はれりて
とてはるる言はれりてはるる言はれりて

附一

古の紀の日本紀の神代卷の神代卷の神代卷
神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代卷
神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代卷
神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代卷
神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代卷
神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代卷
神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代卷
神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代卷
神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代卷
神代卷の神代卷の神代卷の神代卷の神代卷

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or historical document, contained within a rectangular border.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or historical document, contained within a rectangular border.

皇祖神代... (Handwritten text in cursive style, likely a prayer or historical record)
 ... (Additional handwritten text in cursive style)
 ... (Additional handwritten text in cursive style)
 ... (Additional handwritten text in cursive style)
 ... (Additional handwritten text in cursive style)
 ... (Additional handwritten text in cursive style)
 ... (Additional handwritten text in cursive style)
 ... (Additional handwritten text in cursive style)
 ... (Additional handwritten text in cursive style)
 ... (Additional handwritten text in cursive style)
 ... (Additional handwritten text in cursive style)
 ... (Additional handwritten text in cursive style)

祝詞考上卷

○祝詞 是夜あらまは乃里カ其登とりや也。古事記云天津兒
 屋命布カ詔戸言禱白万葉ハナ祭加等美乃敷カ能里
 等其等伊比波良倍ぬと有まき志乃夜乃里カとのりり略

也。大校詞云天津祝詞乃大祝詞事宣礼と有まき志乃夜乃里カとのりり略
 を飾るぬみ上略ぬむむ又事と言ま古ハ志乃夜乃里カとのりり略
 字ハ洗むりぬむむ伊勢神嘗祭云大祝詞辞とも出いり也。

○乃里カ其等ちふ言の意ハ神祖高木神の詔賜ハ御言と奉て見屋
 命の天岩門の前より宣申すれむむ古事記云詔戸言と出まき志乃夜
 乃里ハ皇祖神の美古カ乃利也。古ハ俊字より。乃と崇。辞めりそ
 の多倍を初むる豆と有まき志乃夜乃里カとのりり略。

○大校詞云式にもとせ祝詞と出いりかまむり志乃夜乃里カとのりり略
 辞と有ま依也。皇朝の乃里カ其等も其大神の御切と称りやあはれ也。

○祝詞考上

祝詞... (Vertical text on the left side of the page, including references to '大校詞' and '祝詞')
 ... (Additional vertical text on the left side)
 ... (Additional vertical text on the left side)

祈り大御神
 神の御魂は御神の
 御魂は御神の御魂
 御魂は御神の御魂
 御魂は御神の御魂
 御魂は御神の御魂
 御魂は御神の御魂
 御魂は御神の御魂
 御魂は御神の御魂

その末也皇祖神及御魂命の詔の言ふ事本めれを詔言ちりふ事
 とも有れり然るに被贊辞の字の根元を言ふ事あるとす其の言
 事なりしに及れり此れに及れり此れに及れり此れに及れり
 其祝詞の事なりしに及れり此れに及れり此れに及れり
 此れに及れり此れに及れり此れに及れり此れに及れり

○九祭祀祝詞者御殿御門等祭齋
オヨソ

部氏祝詞以外諸祭中臣氏祝詞
ハコトコト申ス

神祖天津見屋命神事司おんむ天岩の前より大詔を言ふ事宣
 申せし初其齋をいよ任し詔言を白し齋部氏の神祖大玉命ハ
 其の大幣と司おんむ同岩の前より其事を執つてこれを孫大幣と
 奉り諸の社へ頒じたまふ事は奉りぬはるはらの大御門の祭の

臨時、非時、均、非
 時、均、非、時、均、非
 九、割、又、方、等、也、不

詔言を宣ふハ、天守まん豊饗間戸令攝警間戸令大宮賣神志
 乃三柱も大玉命の子よまらんをよその齋とて、忌部氏の掌るが
 ○九四時諸祭亦云祝詞者神部皆
オヨソ

依常例宣之
ヨリテ

神部ハ、神祇職員令、伯大副少副大祐少祐大史神部三十人ト部
 二十人使部三十人と有る其神部の中ハ、中臣氏をさし、此れ

其臨時祭祝詞所司隨事脩撰前祭
ソノトキ

時を同列を

○處分負付...
左右處分先已...
處分處分...
選叙令集解...
與被定同我...
也然...
○神祇官...
○神祇官...
○國統...
○神代...
○大寶令...

進官經處分然後行
○新嘗神祭

此祭の類...
大政官...
○新嘗神祭...
祈年祭...
神天皇の御代...
今集待のま...
宇其那波里...
波牟倍留...
諸の國に...

祈年祭

○祈年祭...
神天皇の御代...
今集待のま...
宇其那波里...
波牟倍留...
諸の國に...

集侍

○波牟倍留...
諸の國に...
神主...
祝部...
宣...

神主

神主祝部等...
宣...

○神留神集神降よ
 既云云、此の外の諸神
 等神もあつた類、
 実に加ふるや、
 むんぞ神留神も、
 むんぞ神留神も、
 の下にても、其の

○宣ひ、この神集神降よ、大御言とあり也。○社、この神集神降よ、
 社の在あり、又神留神降よ、神集神降よ、兼、この神集神降よ、
 この神集神降よ、○右の小書、この神集神降よ、神留神降よ、
 唯、この神集神降よ、神留神降よ、神集神降よ、
 皇紀、此の神集神降よ、神留神降よ、神集神降よ、
 の、本文也。
 左の、也也。

高天原

爾、この高天原、多可安方と云々、安と略、音便也。
 此の、野原河原の、多可安方と云々、安と略、音便也。

神留坐

是、或略、この神留坐、神留坐、神留坐、
 今考、この神留坐、神留坐、神留坐、
 今考、この神留坐、神留坐、神留坐、

○須米、須米良と略
 須米、須米良と略
 須米、須米良と略

今考、この神留坐、神留坐、神留坐、
 今考、この神留坐、神留坐、神留坐、
 今考、この神留坐、神留坐、神留坐、

皇睦神漏伎命神漏彌命以

皇睦神漏伎命、神漏彌命、皇睦神漏伎命、
 皇睦神漏伎命、神漏彌命、皇睦神漏伎命、
 皇睦神漏伎命、神漏彌命、皇睦神漏伎命、

○祝詞考上

宇豆ハ嚴しく六まぬ。也。○みまをたを置座よ亮く
もろをい。椎野天曾紀よ。祭酒公が。卒百八十種。勝部結練と御延よ
亮積よ。依て禹豆麻左ち。氏と賜き。皆盈積之負也。是也。依て宇
豆の言き。神代紀よ。珍字。珍此云。神武紀よ。珍彦。見故。大段祭詞に。
吾皇宇都御子。万葉よ。皇朕宇頭。朝日能。豊逆登爾。
御手以。もら。今合。朝日能。豊逆登爾。
日出る時。その日。佳佳時。必此時。を用。も。あ。給。か。く
よ。○豊も。は。朝日の。豊。と。も。あ。給。か。く
よ。○豊も。は。朝日の。豊。と。も。あ。給。か。く
よ。○豊も。は。朝日の。豊。と。も。あ。給。か。く
よ。○豊も。は。朝日の。豊。と。も。あ。給。か。く
よ。○豊も。は。朝日の。豊。と。も。あ。給。か。く

令集解の用は
祝詞者時行軍宣
集三社に祝部等
あふ。同義解
以皆神祝詞宣旨

官のしんき類は
下の特別しんきの係
神代紀よ。愛賜
しんき。あ。給。か。く
よ。○豊も。は。朝日の。豊。と。も。あ。給。か。く
よ。○豊も。は。朝日の。豊。と。も。あ。給。か。く
よ。○豊も。は。朝日の。豊。と。も。あ。給。か。く
よ。○豊も。は。朝日の。豊。と。も。あ。給。か。く

○はの文と。言を。あ。給。か。く
よ。○豊も。は。朝日の。豊。と。も。あ。給。か。く
よ。○豊も。は。朝日の。豊。と。も。あ。給。か。く
よ。○豊も。は。朝日の。豊。と。も。あ。給。か。く
よ。○豊も。は。朝日の。豊。と。も。あ。給。か。く

○御年皇神等能前承白久
神と。中。其大神よ。むらひ
皇神等能依
御年神乃。下より。宣
手肱爾水沫畫垂
○祝詞者上

○祝詞者上

○六

和の果物... 汁... 醜... 酒... 類...
和の果物... 汁... 醜... 酒... 類...
和の果物... 汁... 醜... 酒... 類...
和の果物... 汁... 醜... 酒... 類...

のれ... 雙... 腹... 滿... 雙... 母... 類... 汁... 爾... 類...
のれ... 雙... 腹... 滿... 雙... 母... 類... 汁... 爾... 類...
のれ... 雙... 腹... 滿... 雙... 母... 類... 汁... 爾... 類...
のれ... 雙... 腹... 滿... 雙... 母... 類... 汁... 爾... 類...

海河... 類... 類... 類... 類...
海河... 類... 類... 類... 類...
海河... 類... 類... 類... 類...
海河... 類... 類... 類... 類...

類... 大野原... 生物者... 甘菜辛... 菜... 物者... 廣物... 奧津藻菜... 邊津藻菜... 御服者...
類... 大野原... 生物者... 甘菜辛... 菜... 物者... 廣物... 奧津藻菜... 邊津藻菜... 御服者...
類... 大野原... 生物者... 甘菜辛... 菜... 物者... 廣物... 奧津藻菜... 邊津藻菜... 御服者...
類... 大野原... 生物者... 甘菜辛... 菜... 物者... 廣物... 奧津藻菜... 邊津藻菜... 御服者...

御年皇神能前
高市郡御歲神社又同郡大歲神社
年御歲神と引つゞける有る本同神と云ふべし此處
ハ何れも社を考へしや考へしこと古事記に順佐能男命大市
比賣を娶り生大年神次宇迦之御魂神と有る何れも穀の神と坐す

御年皇神能前
爾、みも殊に穀を依りし神一がら
高市郡御歲神社又同郡大歲神社
年御歲神と引つゞける有る本同神と云ふべし此處
ハ何れも社を考へしや考へしこと古事記に順佐能男命大市
比賣を娶り生大年神次宇迦之御魂神と有る何れも穀の神と坐す

高市郡御歲神社又同郡大歲神社
年御歲神と引つゞける有る本同神と云ふべし此處
ハ何れも社を考へしや考へしこと古事記に順佐能男命大市
比賣を娶り生大年神次宇迦之御魂神と有る何れも穀の神と坐す

白馬白猪
シロキカネ、シロキ
○年々歲ハ、あまの御魂と云ふべし此處
シロキカネ、馬カケ、下文、馳出物止、御馬と云ふ、神の坐す、猪ハ、豚ハ、
白

白雞
シロキカネ、馬カケ、下文、馳出物止、御馬と云ふ、神の坐す、猪ハ、豚ハ、
白

白猪
シロキカネ、馬カケ、下文、馳出物止、御馬と云ふ、神の坐す、猪ハ、豚ハ、
白

種々色物
種々色物、手、備奉

皇御孫命能
皇御孫命能、手、備奉

幣帛
幣帛、手、備奉

宇豆
宇豆、手、備奉

長井

紀式ももろ。細長井神

阿須波

紀式ももろ。古事記の大年

神子。延津日神。次阿須波神。次波比岐神とあり。万葉上總歌の

阿波奈加能阿須波乃可多に古志波佐之阿須波伊波々牟加倍理久

麻呂爾とあり。文德天皇絶ふ大炊寮大八鳥籠神齋大武主比賣命。

延大皇神云々。此神の神ハ阿須波神と云ふ。万葉のあはれよ。考

阿波比支。登。紀も式も。波比岐神と有。此神を波と比と

伊の如くひ支と濁ら重し。今本に波と

御名者白氏。稱辭竟奉者皇

神能敷坐下都磐根。爾。右の神も。彼座摩の地

省の如く。類考。此座摩の座摩ハ難波の宮に付り。今本に大

和山城の如く。今本に大

宮柱大知立

上の礎の用高

高天原。爾。千木高知

代の宮造の如く。神

大枝の詞。馬の耳孔。と

千木ハ無木也。多利の如く。今本に

古事記の今本に。一所も。永木。一不。水

極。あるは。此の如く。又。文

好む人。水柱。とあり。今本に。頭宗

天皇紀の室賀の御期。取置椽椽。此家長之御心之齋也。有椽椽の

字。即ち。此椽椽。とあり。今本に。齋の如く。今本に

今本に。其椽

の末端。初。其椽

の如く。今本に。天

今本に。椽椽

今本に。椽椽

今本に。椽椽

今本に。椽椽

今本に。椽椽

田...
御舎乎仕奉 皇御孫命乃瑞能
天御蔭日御蔭
御舎乎仕奉 皇御孫命乃瑞能

登 隱 坐
四方國 安國 登 平 久 知 食 故 皇 御
孫 命 能 宇 豆 乃 幣 帛 乎 稱
辭 竟 奉 皇 神 等

能 前 爾 白 久
御門能 御巫能 稱辭竟奉皇神等
掃磐間門

命豐磐間門命登御名者白白稱辭稱辭

竟奉者古事記云。天御孫命天浴時。思兼乎力男天石門。別の大神より首。次天石門則神。亦名謂權石窓神。

亦名謂豐石窓神此神者御門之神也此神也。御門之神也。亦名謂權石窓神。亦名謂豐石窓神。

二座二座神神也也四方御門各四方能御門能御門

雨湯津磐村能如塞座湯津磐村能如塞座

就湯津石村湯津石村也也朝者御門開奉朝者御門開奉

夕者御門開奉夕者御門開奉

疎夫留物能自下往疎夫留物能自下往

者下乎守自上往者上乎守夜能守者下乎守自上往者上乎守夜能守

日能守爾守奉故日能守爾守奉故

皇御孫命能宇皇御孫命能宇

豆乃幣帛乎上豆乃幣帛乎上稱辭竟奉登宣稱辭竟奉登宣

○生島能御巫能稱辭竟奉皇神等○生島能御巫能稱辭竟奉皇神等

能前能前白白久久式式和泉國大島郡生國神社和泉國大島郡生國神社

和名抄云。東生西生と
あり。比牟我志奈利
迄志奈里と刻れり。

○祝詞考上

〇十五

大御神有八萬萬祀
均して世世も
是と天神とちいへ
かたがたひひに記ま
ふの事なれはなせ
さしおほひ
うまひ
かたがたひひに記ま
ふの事なれはなせ
さしおほひ
うまひ
かたがたひひに記ま
ふの事なれはなせ
さしおほひ
うまひ

皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱
辭竟奉登宣
○辭別とらひの
伊勢爾坐天照大御
神能大前爾白之
雄略天皇紀の大御歌よ多礼曾意富麻
幣帛麻衰漬と者と思へどもは於係
皇大御神能
見霽志坐四方
天能壁立極
國者
天能壁立極
國者

かたがたひひに記ま
ふの事なれはなせ
さしおほひ
うまひ
かたがたひひに記ま
ふの事なれはなせ
さしおほひ
うまひ

國能退立限
立也たれハ音通ハ加利の約ハ
國能退立限
立也たれハ音通ハ加利の約ハ

絶と船舵ハ同也
御名ハ船ハ正船也
又此船尾也多伊ハ

白雲能墜坐向伏限
青海原者棹舵不
向伏と違ハ向ハ

今時加地
 倭建命詔吾足得
 築成當載斯形
 柁の柄曲らん坐
 のまじりて又
 加三重方と詔
 まれぬと柁上
 も布を
 俗の權と
 八十振真
 てまは
 なる
 人祝詞も
 としんが
 りひか
 りい
 行

干。船の形も似く通さざりし。柁も古事記に新羅王の云。不乾船腹
 不乾船腹。柁の柄曲らん坐のまじりて又加三重方と詔まれぬと柁上も布を俗の權と八十振真てまはなる人祝詞もとしんがりひかりい行
 爾。舟滿都々氣。氏陸。自陸往道。大馬丸至留。皇大御神。能寄奉。波。荷前者。履佐久彌。盤根木根。馬丸能至。

伊勢大神宮式の九
 月新嘗祭の條。調
 荷前緒。百三十四
 絲綿。布。木綿。麻。脂。熟
 海。魚。鱈。魚。油。海
 藻。且。諸國。對。等。
 又。神宮。諸。國。入。り。ま。す。
 荷前。儀。儀。納。珍。寶。
 色。裁。着。上。衣。名。稱。
 と。よ。稱。し。る。名。也。

留限長道無間久立都々氣。氏。上。り。信
 狭國者廣久峻國者平久。氏。上。り。信
 遠國者八十綱打掛。氏。引。寄。如。事。者。云
 三韓ハカサリ。又。後。國。ハ。度。々。と。も。皇。大。御。神。
 皇。大。御。神。能。寄。奉。波。荷。前。者。履。佐。久。彌。盤。根。木。根。馬。丸。能。至。

○神代紀の今平の
 子女乱まき、字誤ま
 りの事、故に
 正して、疑わ
 ず、又、死か、女
 體、又、皇朝の

万葉の荷向と云ふは、
 地と大内へ、
 皇大御神能大前爾如横山打積置
 氏残波平開看又皇御孫命
 御世乎手長御世登堅磐爾常磐爾
 奉故爾皇孫就而治馬行矣寶祚之隆當與天壤無窮者矣
 書高皇產靈尊因勅曰吾則起樹天津神籬於天磐境當為吾孫奉齋
 矣汝天兒屋命大玉命宜起樹天津神籬於葦原中國亦為吾孫奉齋焉

○事の自の假
 字也且濁の言は
 以修の言は

天照大御神の御孫命の御世と
 皇吾睦神漏伎神漏彌命登
 宇車物頭根衝抜
 且頭根ハ首根也頭也倒ハ先頭也
 事ハ物也即ハ事也
 船の浮びぬを、
 類也衝抜ハ突通す

〇縣。古事記の成務大
 宣條に定賜大國小國
 之國送亦是賜國之
 親及大縣小縣之縣主
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 郡縣邑。〇〇〇〇〇〇
 逆の〇〇〇〇〇〇〇〇
 公の〇〇〇〇〇〇〇〇
 類聚國史の國送の
 條。〇〇〇〇〇〇〇〇
 皇難波朝廷御宣諸
 郡〇〇〇〇〇〇〇〇

皇御孫命能宇豆乃

幣帛乎称辞竟奉登宣

〇御縣爾坐皇神等前爾白

高市葛木十市志

貴山邊曾布登御名者白

此六御

此六御

縣爾生出甘菜辛菜

持參來

皇御孫命能長

御膳能遠御膳登聞食故皇御孫命

乃宇豆能幣帛乎称辞竟奉登宣

〇山城の京なり。内膳職の十所の御園を定め。大和の六縣八月次新

〇祝詞考上

〇三

嘗の多めど茲
させ給はざる也

○山口坐皇神等能前爾白久飛鳥

高市郡石寸忍坂城上長谷同畝火高市耳

無登市御名者白氏是社の在所と御名とするも上りぬれし九山口坐神とい

其材を採りし山神のまは各々あり
遠山近山爾生立留大木小木乎遠山

諸國の山也。万葉集。藤原の宮造の材と。近江の田上。その外
四方はむくも持参るものと云ふ。是と以てあるを然し。本末

打切 氏持 參來 氏大般祭の條。今奥山乃大峽小峽
本末。山神。祭。中間乎持出來。氏と有る也。さへ遠き山と

皇御孫命能瑞能御舍仕奉

天御蔭日御蔭登隱坐氏四方國

乎。もも。四面の略。安國登平久知食須

故皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭

竟奉ヲヘタラシム 宣ノリマシ

○水分坐皇神等能前爾スベカニタチ白久シラキ 古事記コトワザ 天水分神アメノミヅノカミ

○今山邊郡葛木村
○今山邊郡葛木村
○今山邊郡葛木村
○今山邊郡葛木村
○今山邊郡葛木村

訓下敷久麻と河津をみらまうと云ぬ世の訓ハ、
水分ハ文武天皇紀ノ奉馬于吉野水分峯神祈爾也、
振已疑敷三芳野之水分山乎見者悲毛など有ま、
吉野宇陀都祁
坐神をよ、
式よ山邊郡葛木村
水分神社出ま、
葛木 登式よ葛上 郡よ
御名者白氏
稱辭竟奉者 皇神等能寄

志奉 奥津御年 八束穂能 伊加

志穂 爾寄志奉者 皇神等 爾初

穂平 穎汁 爾碓 間高知 碓腹 満雙

氏類ハ穂汁ハ酒をい、
の略よる、
上つ代よ、
とよ、

稱辭竟奉 氏遺 乎皇御孫

命能 朝御食夕御食 能加牟加比 爾

是も於夕御食料ノ神類、
し、
加比ハ、
米の

すまひのりかた。上の御年の神事よす。長御食能遠御

又よいへりかた。下よ和指とらひ。赤丹穂爾聞食故丹。且その

赤き銀光を後とらひ。万葉に紅衣深帷欲著丹穂故人可知ぞとい侍

下。の神賀よ赤玉能御阿加良皇御孫命能宇豆能

幣帛乎稱辭竟奉久諸聞食登宣諸厨

○辭別かくらひ。上れ修場。忌部能忌部氏の弱

肩爾大多須支取掛氏。弱肩云云。續日本紀の

且忌部の勞き仕奉る。持由麻波利仕

奉禮幣帛乎持。其由伊牟の約也。仍り古くは

○齋部ハ神事の時。手行有る。禰と掛。御膳に仕奉る男女の禰

領中と掛。後世神を拜も。未綿織を掛。忌部

神主祝部等受賜氏。御孫命の御代。忌部

車不過捧持奉登宣。謹敬て持

退く。退

し。神事。車

うけ物。退

又大嘗祭の感絶

○香取坐伊波比主
 中興教...
 ○神代紀の余...
 ○武甕槌の鹿嶋...
 ○右の小便...
 ○國河内郡

ハ。伊勢の神宮の海より、カトリキエス、イハ、ヒノウシ、
 西の山、言辭よく居る。香取坐伊波比主

命。式よ下総國香取郡香取神社。新嘗。天神道經津主神武甕槌神
 七壽之大人とのヤノ也。神代紀。天津甕星。亦名天香。請先誅

使平定葦原中國時二神曰天有惡神名曰天津甕星。既而二神降出
 此神然後下撥葦原中國。是時尙主神号爾之大人也。既而二神降出

雲國云云。右の尙主神云云の主人。大人云云言ぬる。丹波
 道守志王と道主王との云々。奇主神号爾之大人と

大人と云々。經津の二宮を齋しよる。武甕槌の鹿嶋。坐す。右の小便
 齋生と云し。武甕槌の鹿嶋。坐す。右の小便

書。齋生の坐す。武甕槌の鹿嶋。坐す。右の小便
 坐す。武甕槌の鹿嶋。坐す。右の小便

救國坐天子子八根命。式よ河内
 國河内郡

○平岡神社四座...
 ○藤原氏...
 ○比賣神...
 ○廣前...
 ○仁

平岡神社四座...
 藤原氏...
 比賣神...
 廣前...
 仁

白。廣ハ太...
 伊勢神宮の外...
 大神等能乞

賜。能比...
 春日能...
 三笠山能...
 下津岩

根。爾...
 宮柱廣知立...
 高天原爾...
 千木高知

高天原爾...
 千木高知

高天原爾...
 千木高知

○祝詞考上

○坐

氏天乃御蔭日乃御蔭止定奉氏定の上

言... 鹿嶋香取大神。三笠山に宮造して遷す。神護景雲二年。又平岡の大神の同じ。昔は... 紀の川

貢流神寶者御鏡御横刀御弓御梓

御馬爾備奉理馬の亦... 雅

御服波明多閑照多閑和多

閑荒多閑爾仕奉氏四方國能

俗を國

與と有獻禮御調能荷前取並青海

原乃物者波多能廣物波多能狹物

奥藻菜邊藻菜山野物者甘菜辛菜

爾至氏御酒者甕上高知

甕腹滿並氏雜物乎如横山積置

氏神主爾某官位姓名乎定氏獻流

宇豆乃大幣帛乎安幣帛乃

○姓... 且... 也...

○前詞考上

○六

。或説。嘉祥三年。兩院冬關公。於。遷。其前年嘉祥三年。遷。今。四時祭。式。春日祭の次。大原野神田座祭と奉。神名式。以社と奉。後。落。又同じ訓郡。訓坐火雷神社。名神大月。社。合。別。奉。火雷。建。也。或人。詳。

登。大原野。投。大原野。早園の。其。祝詞。准。之。

○故。大原野。山城。仁明天皇。嘉祥三年也。或。春日。其前年嘉祥三年。遷。今。四時祭。式。春日祭の次。大原野神田座祭と奉。神名式。以社と奉。後。落。又同じ訓郡。訓坐火雷神社。名神大月。社。合。別。奉。火雷。建。也。或人。詳。

○廣瀬大忌祭。

。今日龍田祭。是。傳。

神名式。大和國廣瀬郡。和加宇加乃賣神社と有。文德實錄。廣瀬郡。廣瀬。大忌祭。和加宇加乃賣神社と有。文德實錄。廣瀬郡。廣瀬。大忌祭。和加宇加乃賣神社と有。文德實錄。

武天皇四年四月。奉。持統天皇。四月。七月。御使。大。四月。七月。御使。大。四月。七月。御使。大。四月。七月。御使。大。

廣瀬。能。川。合。關。今。佐保川の流合。川合。

○祝詞考上

○六一

。瀬川の末。方。佐保川の末。北。方。

今合て今の大和川

此神をも各別し
別すればせむ
上御名を白
て次又御名者白
とら類次の神田
あるも者古
にたかふるは
祓たも奈良の朝
とすり文の掛く

とい修らんとすし今大和川と大川と名もあはれ也
所のは 稱辭竟奉 流皇神能 御名手白

久御膳持 須若宇加能 賣能命 登御

名者白 古事記云伊弉諾大神の御子
和久産巢日神其子
豐宇氣比賣神す外宮の度相坐登由氣神と

有もの御名めし氣と加音同じはまた又神代紀一書
飢時生卵倉稻魂命す保食神と軒遇突智命の子す
如此修へのと修らむと古へは修の也九の神

の御功と御名と共穀物食の類と
此皇神御前爾稱辭
魂をものゝとえゆめ

かれら物方を後人
毛をも俗とおま
ハハハハハハハハ
ぬるぞぞ

竟奉 皇御孫 能宇豆 能幣帛 乎

令捧持 王臣等 乎為使 天武天皇四年
癸未ハ甲戌朔

中間人連大蓋 大山中曾禰連 韓大祭大忌神於廣瀬河曲と有る
持統天皇まふんさる其紀ハ四月七月御使のハあまき使

人の名も皆略々今此文奈良朝の事と見ゆる
廣瀬の王使ハ
臣五位以上各一人 神祇官六位以下各一人 充使と見ゆる

稱辭 竟奉 神主 祝部等 諸聞食 登

宣 宣ハ其の宣也使の中臣神あまき唱まむ神に宣
宣ハ其の宣也使の中臣神あまき唱まむ神に宣

祢唯訖く次の

文を唱る也。

奉流宇豆乃幣帛者御服明妙照妙

和妙荒妙五色物 四時祭式に純一丈八尺縵二絢縵
五兩五色薄純各一丈五尺倭文三

尺の五色の純也或説よ五色の物ハ神寶の五色といふも何ら

右の五色の純也或説よ五色の物ハ神寶の五色といふも何ら

楯戈御馬 右同式に楯鉄鞍の三色有鉄ハ鉾の料ぬる下
もん也楯ハ神代紀一ハ大汝貴神の御さめハ供

造百八十縫之白楯 天孫乙路禊時ハ作盾とありかくる崇神天

皇の御代ハ神社に楯戈を奉りてあり始て又且楯ハもと皮して

縫一也故出雲風土記の楯縫郡

御酒者鴨能閑高

○後陽武の儀祭ハ唱
る文ハ五色寶物山
種ハ味物ハミ
依ハ五色の
神宮ハ五色の
も有ハ五色の
ハ五色の
祭文ハ五色の
ハ五色の

知毬能腹滿雙氏和稻荒稻 爾ハ古米也

荒稻ハ穎ハ有とありその穎の粒をより去るは

山爾住物者毛能和支物鳥毛

能荒支物也大野能原爾生物者甘

菜辛菜青海原爾住物者鱒能廣支

物鱒能狭支物奥津藻菜邊津藻菜

爾至置足氏奉皇神前爾白賜

○此田のふまに
食須五穀物乎始
○御代のカガモ
神代也代八田を
仍て崇神天皇紀
神代田と云ふ
アハハの田地

部宣 神主等 如此 奉守 豆乃 幣帛 乎
 登 唯 能 足 幣帛 登 皇 神 御 心 平 久
 安 幣 帛 能 足 幣 帛 登 皇 神 御 心 平 久
 安 久 聞 食 氏 皇 御 孫 命 能 長 御 膳 能
 遠 御 膳 登 赤 丹 能 穂 爾 聞 食 乎 五 穀
 物 之 五 穀 物 之 五 穀 物 之 五 穀 物 之 五 穀 物
 ○右ノ五穀物も三字ハ有ク次ノ皇神能御代ノスバ
 六字ハ衍字ノ下ニ御代ノ言ヲモル修スベシ
 御代乎始 親王等王臣等 親王云云
 神能

○民之百姓のま
 ○東穂の次ノ茂
 穂多カミノ言今
 一ノ言ハハハハハ
 の言ハハハハハハ
 ハハハハハハハハ

封カの田地と云ふ○皇子を親王二世以下を大君と云ふ
 大寶令の頃もこの也此祝詞ハ慶雲元年和銅の初レノ文
 天下公民能取作奥都御歳者
 手肱爾水沫畫垂向股爾泥畫寄氏
 取將作奥都御歳乎奥つまらぬは古言ハ
 ハ東穂爾皇神能成幸賜
 者初穂者汁爾穎母千稻八千稻爾
 今本ハ八十稻者ヲ誤スル言ハ千代ノ八
 千代ノ五百代ノ千代ノ也下ノ都ノ言ハ千代ノ八
 千代ノ也

○祝詞考上

一

里長... 又西京の...
防令...

か... 日... 皇神前 爾 宇車物頭根築拔 氏

朝日 乃 豊榮登 爾 稱辭竟奉 又

神主 祝部等 諸聞食 止 宣

年祭... 高市... 葛木... 十市... 志貴... 山邊... 曾布... 六郡也... かくて... 山口... 坐神と申... 高市... 飛... 十市... 石... 城上... 忍... 同... 長... 坂... 谷... 又高市... 坂... 又十市... 耳... 梨... ち... 同式... あ... 是... 御縣の社... 山口... 社... 各... 也... 又四時祭... 式... ち... の大忌祭の條... 是日... 以御縣六座... 山口... 十四座... 合... 祭... 大忌祭... 此御縣六座... 右... 曾布... の六也... 山口... 四... 時祭... 式... 石木... 忍坂... 長谷... 畝... 耳梨... 夜... 支布... 漆上... 郡... 伊古麻... 郡... 巨

勢... 山口... 神社... 葛木... 上郡... 當麻... 葛下郡... 大坂... 同... 吉野... 郡... 吉野... 郡... 都那... 郡... 山邊... 十... 四座也... 此中... 祈年祭の祝詞... 外... 加... 此

龍田風神祭

神名式... 大和國龍田坐... 天御柱... 國御柱... 神社二座... 並各神... 龍田比古龍田比賣神社二座... 足... 則龍田山の東... 西の麓... 立野... 今... 立野村... 其... 立野... のみ... 東... 向... 大... 社... 二... 首... 是比古神比女神也... その大社の東に... 小社... 何... 後... 齋... 齋...

龍田 爾 稱辭竟奉皇神 乃 前 白

○祝詞考上

○世田

今... 高市... 葛木... 十市... 志貴... 山邊... 曾布... 六郡也... かくて... 山口... 坐神と申... 高市... 飛... 十市... 石... 城上... 忍... 同... 長... 坂... 谷... 又高市... 坂... 又十市... 耳... 梨... ち... 同式... あ... 是... 御縣の社... 山口... 社... 各... 也... 又四時祭... 式... ち... の大忌祭の條... 是日... 以御縣六座... 山口... 十四座... 合... 祭... 大忌祭... 此御縣六座... 右... 曾布... の六也... 山口... 四... 時祭... 式... 石木... 忍坂... 長谷... 畝... 耳梨... 夜... 支布... 漆上... 郡... 伊古麻... 郡... 巨

ハノノ法... 十町... 鹿之有故而取天香山

志貴嶋 爾 崇神天皇の大和國 大八島 國 知 志

皇御孫 命 乃 遠 御 膳 乃

長御膳 止 赤丹 乃 穗 爾 聞 食 須 五穀

物 始 氏 古事記云 大宜津比賣神死す 於二目生稻種於二

天下 乃 公民 乃 作物 乎 草 乃 片葉

爾 至 大被の詞 草之根葉と出ハ訓を部とせ 於二片葉

不成一年二年 爾 不在歲

今本真代久し者... 音通へん

真泥久傷故 爾 麻久とよめ也 崇神天皇の御代

ハ民の疾病... 仍て大物主大國魂の神

紀 天神地神共享而風雨順時 百穀用成

乃 托事 爾 出 牟 神 乃 御心者 此 神 止

白 止 負 賜 支 百 能 物 知 人 等

鹿之有故而取天香山

之波之迎而令古麻加
 那波而之官と令せ
 又万葉右の下に能
 良奴伊毛我各可多
 亦伊志牟可母の
 へるの聲を焼く
 形と云ふ

有抜而とある。此をまじりて万葉よもひの
 此乎物知人等
 乃ト事乎以氏ト出留神乃御心
 母無止白止聞者
 皇御孫命詔久神等
 天社國社止忘事無久遺事無久
 稱辭竟奉止思志
 波須續日本紀の詔よ所思行止久所念行亦所思行止
 誰神曾古事記雄略よ妻礼曾意富麻幣
 乃作作物乎不成傷神等波我御
 心曾悟奉禮宇氣比賜支
 是以皇御孫命大御夢爾悟奉久
 乃公民乃作作物乎惡風荒水爾相

○今平よもひの
 ○上の作の下に登
 ○命の下に能
 ○伊めれ伊の寝入
 ○也さして毒を物
 ○信りて目と立ハ
 ○即えりてまゝのつ

行波須續日本紀の詔よ所思行止久所念行亦所思行止
 誰神曾古事記雄略よ妻礼曾意富麻幣
 乃作作物乎不成傷神等波我御
 心曾悟奉禮宇氣比賜支
 是以皇御孫命大御夢爾悟奉久
 乃公民乃作作物乎惡風荒水爾相

○祝詞考上

○禁

都ト不成傷波ハ我御名者ハ天乃御柱乃ハ
 命國乃御柱乃命止御名者悟奉氏ハ
神代紀の生目神云授以天上之事故以天柱奉於天上也。この天柱即伊邪那岐命の御息也。風神とす。よりの世風神と天御柱國御柱神と。又同一書。伊邪諾尊曰我所生之國唯有朝霧而薰滿之哉乃吹降之氣為神号曰級長津彦命是風神也。いひ万葉。龍田彦勤比花平風尔莫落とて次のふに風莫吹登奇越而名負有社尔風祭為奈と有るを合せ。龍田彦命。
 吾前爾奉幣帛者ハ古事記の海を光り來る神乃共與相作成同記の雄略天皇御服者明妙照妙和ハ
の作多れ言々上より傳也。

○是夜は正家也故に
 左の崇事なり
 何事なり其の事なり
 月のみよりの事なり
 ぬふに御在
 野との事なり
 ちり也。

妙荒妙五色乃物楯戈御馬爾御鞍ハ
 具品々乃幣帛備氏ハ神代紀の八品とやい
品もきぬと云ふ
 つかあたる。 吾宮者朝日乃日向處ハ是國
也直向於日出方故号其國曰日向也。あめく立野ハ龍田山の東の麓に在り。日向処と云ふは日影を
 い陰にまよさるる事なり。夕日乃日向處乃日向の
 山のあはゆる事なり。龍田乃立
 文の考より云ふ。○かきとて略し約しがら
 野乃小野爾吾宮者定奉氏吾前ハ

稱辭竟奉者天下乃公民乃作作物
者五穀乎始爲草乃片葉爾至成
幸問奉止悟奉支是以皇神乃辭教
悟奉處爾宮柱定奉爲此乃皇神能
前爾稱辭竟奉止皇御孫命乃宇豆
乃幣帛乎令捧持爲王臣等乎爲使
稱辭竟奉止皇神乃前爾白賜事乎

神主祝部等諸聞食止宣其故はし
と稱へる初めは

章ぬ

奉宇豆乃幣帛者比古神爾古事記の生風
神名志那都彦

神と有るなり又神代紀の吹撥之氣化為神乎曰級長戸邊命級長
命は是風神也といふ古記二書互に一神落るもの也今け祝詞を
て彦神比賣神おはす故はし志るは統ハ二書をも補ふべし乃葉は
龍田彦といはるる彦は乃葉は下神といふのみ神代紀と古の文の次
の言は依ふ所のあは龍田姫と申す即ち乃葉又天御柱國御柱乃二
神と龍田彦龍田比賣二神を並名式におはす奉今も別社よ齋奉ハ和
魂荒魂のりえ又下神も二名おはすも其切は依るは乃葉類
ひぬるえは統祖の外是は神切を思はるまは右ハ外野は

ハおはは 御服明妙照妙和妙荒妙五色

能物楯戈御馬爾御鞍具品々乃

幣帛獻比賣神爾御服備色物

金能麻笥

金楯

金能楯

日本後紀よ山城國相樂郡持とあり

和妙よ洛環家
利と訓と字と異れ
と云物向

くも物といふものありといへば

亦分かつた今四合女は終車

いひまのせり事とあり

明妙照

妙和妙荒妙五色能物

也上は衣備とりやち既に考神

ト云といふ事あり且明妙云

御馬爾御鞍具雜幣帛奉御酒

者。能。閑。高。知。能。腹。滿。雙。和。稻。
 荒。稻。爾。爾。和。稻。米。と。名。を。い。ひ。山。爾。住。物。者。
 毛。能。和。物。毛。能。荒。物。大。野。原。爾。生。物。
 者。甘。菜。辛。菜。青。海。原。爾。住。物。者。鱈。能。
 廣。物。鱈。能。狹。物。奧。都。藻。菜。邊。都。藻。菜。
 爾。至。爾。如。橫。山。打。積。置。奉。此。宇。
 豆。乃。幣。帛。乎。安。幣。帛。能。足。幣。帛。止。皇。

神。能。御。心。爾。平。久。聞。食。天。下。能。公。
 民。能。作。作。物。乎。惡。風。荒。水。爾。不。相。賜。
 皇。神。乃。成。奉。閑。賜。者。初。穗。者。能。閑。
 高。知。能。腹。滿。雙。氏。汁。爾。穎。爾。八。百。稻。
 千。稻。爾。引。居。置。氏。秋。祭。爾。奉。王。卿。
 等。百。官。能。人。等。

〇百官人等と能の辞あるも其官中の人と...

〇祝詞考上

〇單

倭國六縣能刀禰男女爾至ハヤトノクニノシツクニカカタ ト ネ ヲ コ ヲ ヲ ナ ニ ル ト シ ル カ ニ 同 日

廣瀬龍田此御使廣瀬龍田此御使 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

六縣の人六縣の人 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

七月者七月者 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

今年七月今年七月 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

諸參集諸參集 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

皇神能前爾皇神能前爾 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

事物頸根築事物頸根築 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

榮登爾稱辭榮登爾稱辭 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

流皇御孫命能流皇御孫命能 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

豆乃幣帛乎豆乃幣帛乎 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

神主祝部等被賜神主祝部等被賜 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

情情 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

奉宣命乎奉宣命乎 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

諸諸 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

車無車無 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

事無事無 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

奉宣命乎奉宣命乎 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

諸諸 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

事無事無 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

奉宣命乎奉宣命乎 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

諸諸 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

事無事無 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

奉宣命乎奉宣命乎 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

諸諸 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

事無事無 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

聞食止宣聞食止宣 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

○平野祭平野祭

神名式よ山城國葛野郡平野坐神社四座並名神大 ト シ ル カ ニ 同 日

天平寶字元年五月天平寶字元年五月 ノ コ ト シ ル カ ニ 同 日

○祝詞考上

○中

祖の事ありて、その子孫
家奈良京田村里に
あり。

源氏、桓武天皇皇子
信公の始、皇子よ、弘
仁五年、此氏姓を賜
ふ。次、延暦元年、又も
天皇の皇子、長岡、廣原、
の氏を賜ふ。又平氏も
同天皇の皇子、萬原
親王の子、大學頭、從
四位下、高棟王、天皇二
年、賜ふ。右の商、
は神を奉じ、也。
大江氏、本、土師宿禰
也。天德、日命の商
也。光仁天皇の神時、

その王師、藤原、政又
大枝、
其大枝、音、入、真觀の
神時、申、大江の
和成、氏、録、諸蕃
の中、
因、
根津、
○、
皇太子、高市、皇子、尊
光仁天皇の御、志
貴親王、同、皇子
か、

二月の紀、田村後宮、今木大神、叙從四位上、
平野へ遷、
右社、預從五位下、卜部平麻呂、解狀、備謹、檢、
立、件、社、之、日、點、定、四、至、奏、聞、既、訖、云、云、
上、兼、和、三、年、平、野、の、今、木、ハ、正、四、位、上、久、度、古、閑、二、神、從、五、位、
從、一、位、久、度、古、閑、ハ、從、三、位、比、賣、神、ハ、從、四、位、下、同、年、の、末、ハ、
今、木、ハ、正、一、位、次、々、皆、進、階、有、後、平、野、ハ、過、正、一、位、
十一月、上、申、參、議、以、上、赴、集、或、皇、大、子、親、進、奉、幣、
平、野、祭、四、月、
平、野、祭、ハ、桓、武、天、皇、後、王、
及、大、枝、氏、和、氏、并、預、見

參、
此、御、嗣、
齋、
姓、和、氏、贈、正、一、位、乙、繼、之、女、也、母、贈、從、一、位、大、枝、朝、臣、直、妹、右、
先、出、自、百、濟、武、寧、王、之、子、純、陀、大、子、
お、
の、本、居、の、神、
氏、
は、
紀、元、年、十、一、月、九、日、平、野、春、日、祭、如、常、
官、大、原、野、
元、安、二、年、四、月、
同、年、四、月、

○祝詞考上

○四十一

○下北御神詞... 宜一伊勢神宮... 置足成... 例... 成... 幸... 奉... 萬... 世... 爾... 御... 坐... 令... 在... 米... 給... 登... 稱... 辭... 竟... 奉... 登... 申... 又... 申... 百... 參... 氏... 仕... 奉... 流... 親... 王... 等... 王... 等... 臣... 等... 百... 幸... 奉... 氏... 萬... 世... 爾... 御... 坐... 令... 在... 米... 給... 登... 稱... 辭... 竟... 奉... 登... 申... 又... 申... 百...

至^{イタル} 麻^{多クモノ} 乎^ヲ 如^{ヨコ} 横^{マノ} 山^{コトク} 置^{オキ} 高^{タラ} 成^{ハシ} 氏^ラ 足^ミ 常^{ツネニ} 也^シ
 帛^{クラ} 乎^ヲ 平^{ヒラ} 之^ノ 聞^{キコ} 食^シ 氏^ラ 天^{スメ} 皇^ラ 我^カ 御^ミ 世^ヨ 乎^ヲ 堅^{カキ}
 磐^{イハ} 爾^ニ 常^{ツネニ} 磐^{イハ} 爾^ニ 齋^{イハヒ} 奉^{マツ} 利^リ 伊^イ 賀^カ 志^シ 御^ミ 世^ヨ 爾^ニ
 幸^{サキニ} 用^ヒ 奉^{マツ} 氏^ラ 萬^{マン} 世^セ 爾^ニ 御^ミ 坐^{マシ} 令^ミ 在^シ 米^メ 給^{タマ} 登^ト
 令^ミ 御^ミ 坐^{マシ} 給^{タマ} 稱^タ 辭^ハ 竟^{コト} 奉^{マツ} 登^ト 申^ス 又^{マタ} 申^ス
 之^ノ 參^{マツ} 氏^ラ 仕^{マツ} 奉^{マツ} 流^ル 親^ミ 王^コ 等^ナ 王^コ 等^ナ 臣^ミ 等^ナ 百^{マン}

○下北御神詞... 宜一伊勢神宮... 置足成... 例... 成... 幸... 奉... 萬... 世... 爾... 御... 坐... 令... 在... 米... 給... 登... 稱... 辭... 竟... 奉... 登... 申... 又... 申... 百... 幸... 奉... 氏... 萬... 世... 爾... 御... 坐... 令... 在... 米... 給... 登... 稱... 辭... 竟... 奉... 登... 申... 又... 申... 百...

官^{ツカ} 人^サ 等^ト 乎^ヲ 夜^ヨ 守^{モリ} 日^ヒ 守^{モリ} 爾^ニ 守^{モリ} 給^{タマ} 氏^ラ 天^{スメ} 皇^ラ
 我^ガ 我^ガ 尔^ニ 朝^{ミカド} 廷^ド 爾^ニ 伊^イ 夜^ヤ 高^{タカ} 爾^ニ 伊^イ 夜^ヤ 廣^{ヒロ} 爾^ニ
 王^{ミヤ} 臣^シ 之^ノ 官^{ツカ} 位^イ 彌^イ 益^ヒ 乎^ヲ 氏^ラ 族^シ 也^シ 元^{ハジメ} 正^シ 天^{スメ} 皇^ラ 紀^キ 之^ノ 詔^{ミコトノコト} 下^シ 乃^ハ
 政^{セマツ} 乎^ヲ 彌^イ 高^{タカ} 爾^ニ 彌^イ 廣^{ヒロ} 爾^ニ 者^{ナリ} 天^{スメ} 皇^ラ 之^ノ 御^ミ 稜^セ 威^イ 之^ノ 彌^イ 貴^キ 乎^ヲ 御^ミ 食^ケ 國^{クニ} 弥^イ 弘^{ヒロ}
 異^イ 乃^ハ 伊^イ 賀^カ 志^シ 夜^ヤ 具^グ 波^ハ 延^ヒ 乃^ハ 如^{コト} 久^ク 立^{タチ}
 榮^{サカエ} 之^シ 令^ミ 仕^{マツ} 奉^{マツ} 給^{タマ} 登^ト 乃^ハ 稱^タ 辭^ハ 竟^{コト} 奉^{マツ} 登^ト 申^ス
 稱^タ 辭^ハ 竟^{コト} 奉^{マツ} 登^ト 申^ス 乃^ハ 稱^タ 辭^ハ 竟^{コト} 奉^{マツ} 登^ト 申^ス

○祝詞考上

○用

久度古開
神名式
平群郡
龍田

久度神社ハ神名式ノ平群郡ヨリ出今も同郡龍田ノ古開ニ
社々所ノ大和川ノ傍ニ久度村ニ里あり其ノ氏
神ト斎社ト云ノ皇神ト云人ト云○古開ハいつ
ノ也今も考ルモノハ文徳實録ニ見ル
紀ノミニ久度古開ト云事ヲ神位ニ見ルハ同
云ノ斎社ト云ハ紀ノミニ見ルニ所ノ宮ニあり

○久度古開 大和今此平野ノ社

久度神社ハ神名式ノ平群郡ヨリ出今も同郡龍田ノ古開ニ
社々所ノ大和川ノ傍ニ久度村ニ里あり其ノ氏
神ト斎社ト云ノ皇神ト云人ト云○古開ハいつ
ノ也今も考ルモノハ文徳實録ニ見ル
紀ノミニ久度古開ト云事ヲ神位ニ見ルハ同
云ノ斎社ト云ハ紀ノミニ見ルニ所ノ宮ニあり

天皇 我 御命 爾 坐 衆 久度古

開二所乃 宮 爾 之 仕奉來 流

皇御神 能 今本皇大神と云

廣前 爾 白給 久皇

御神能 乞比 給 之 比 任 爾 此 所能 底

皇御神能 今本皇大神と云
廣前 爾 白給 久皇
御神能 乞比 給 之 比 任 爾 此 所能 底

○給比と有べし万
の字は街也
○今本皇大神と云

一ノノミヤハシラヒロシキタテノタカマ
ノミヤハシラヒロシキタテノタカマ
ノミヤハシラヒロシキタテノタカマ

津石根 爾 宮柱廣敷立高天 能原 爾

千木高知 氏 天能御蔭日能御蔭止

定奉 氏 氏能御蔭日能御蔭止 二百四十餘年

上の今木れ文と全用し
たれど、さうに助かると

○祭儀分中
祭儀分中
祭儀分中

○六月月次祭 准之

四時齋式、月次祭、六月、十二月、十一日、十二日、十三日、神祇令、
月次祭義解、於神祇官與新年祭同祭、如兼人宅神祭也、

○此祭ハ神祇令、
出、又大寶元年七月、
乙訓郡火雷神、夏、
大幣月次幣例と紀、
古、其、其、其、
或、弘仁年中、
何、

集侍神主祝部等諸聞食登宣

高天原 爾 神留坐皇睦神漏伎神漏

彌命以天社國社登稱辭竟奉皇神

等能前爾白久今年六月月次幣帛

波ハ 十一二月者シテ 云ク 今年コトシ 明アカル 妙タヘ 照テル 妙タヘ 和ニキ 妙ハ
 荒アヲ 妙タヘ 爾ニ 備ソナヘ 奉マツリ 朝アサ 日ヒ 能ノ 豐トヨ 榮サカ 登ノリ 爾ニ 皇スベ
 御ミ 孫マノ 命ミコト 能ノ 宇ウ 豆ヅ 乃ノ 幣ミテ 帛クラ 乎ヲ 稱タヘ 辭ハコト 竟ス 奉マツラ
 登ノ 宣イマヒ

右の如く。御幸皇神等能前白云云此文あれども、れ
 八つ、さかぬ、その次の座摩乃御巫、て御門生嶋伊
 勢御縣山口水分辞別忌部云捧持奉登宜と、ま
 での皆、全、自文也、

祝詞考上卷 終



